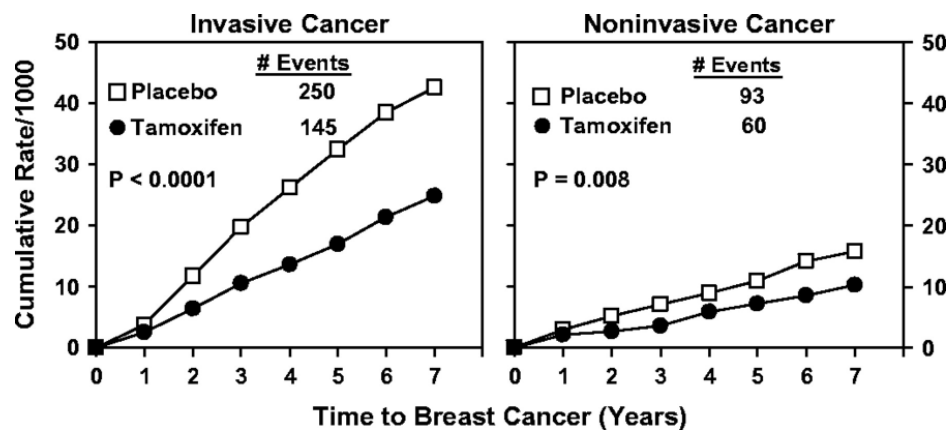
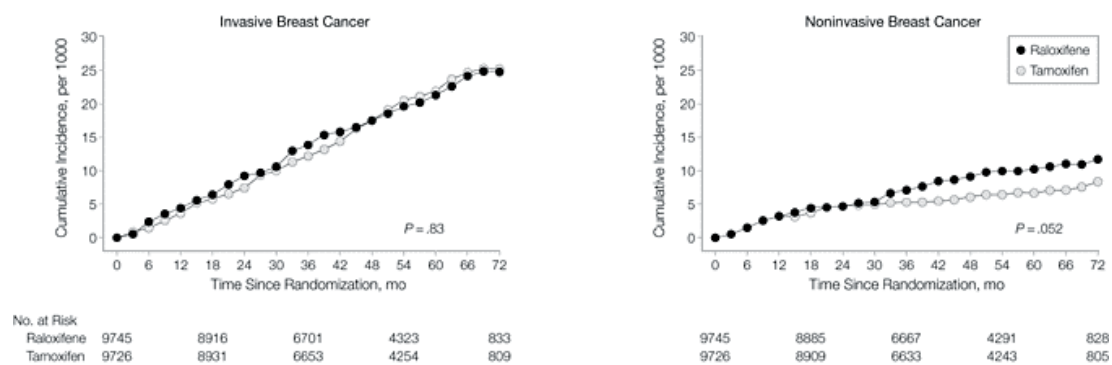


乳がんの予防

乳がんの化学予防について、Tamoxifenを使用したNSABP-P1、IBIS-1、Italian、Royal Marsdenに4つの大きな試験があり、試験の結果は全て一致しているわけではありませんが、Tamoxifen投与により全乳がんの発生率は38%、ER陽性乳がんの発生率は48%減少するという結果が得られました。代表的なNSABP-P1試験の結果を示します（Journal of the National Cancer Institute, Vol. 97, No. 22 p1652-62）。



Raloxifene は Tamoxifen と同様に SERM(selective estrogen receptor modulator)に属し、乳管上皮細胞や乳がん細胞に対して ER の antagonist として作用します。Raloxifen を用いた MORE (multiple outcomes of Raloxifene Evaluation trial) では乳がんの発生率は 62%減少し、ER 陽性乳がんの発生は 84%減少しました。NSABP P-2 試験では tamoxifen と同様の予防効果が認められ、副作用は Tamoxifen に比べて総じて少なかったことが報告されています。(JAMA. 2006 Jun 21;295(23):2727-41. Epub 2006 Jun 5. Erratum in: JAMA. 2006 Dec 27;296(24):2926.)



尚、これらの化学予防は乳がんの遺伝的素因が非常に強い場合などには考慮されますが、健常人に対しては勧められません。